

月経でわかる妊娠力②

中医学では、腎は精を蓄え、肝は血を蔵すると考えます。女性の場合は35歳頃からの働きが低下し始めるので、腎の働きを助け、腎精を補う処方が必要になります。

ます。

ほてりやのぼせは腎精や腎陰の不足が進んだ症状です。二仙膠(にせんきょう)のような処方では腎精を補いながら卵子の質を良くして

あげると妊娠しやすく、更に赤ちゃんを守り育てる力も付いてゆきます。

妊娠力の低下の原因を見つけ、健康的に体を整えることが、健康的に赤ちゃんを授かる秘訣です。



<第五十八話>

し始めるので、腎精が不足し、老化が進み、妊娠力が弱まります。

月経が稀
発・経血が

少ない、排卵にくい、基礎体温が二相性にならない、高温期が短い

体力低下や足腰の弱り、冷えがあるのは腎陽虚です。温めながら腎を

補う海馬補腎丸(かいま

(低い)、あるいは体温に陥没がみられるような場合には、妊娠力の衰え、腎の力不足で

補う海馬補腎丸(かいまほじんがん)や参茸補血丸(さんじょうほけつが

◆飯島仁生堂薬局本店

丸(さんじょうほけつが

丸(さんじょうほけつが

足立区千住1-29-2
☎3881-2273

の衰え、腎の力不足で

丸(さんじょうほけつが

http://www.jinseido.co.jp